

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 豊橋市立岩田小学校 (※正式名称を記載)  
種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>  
 中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校  
 教員養成大学  専修学校、各種学校  
 特別支援学校  
 その他 (例：小中高一貫 )  
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 440-0832  
愛知県豊橋市中岩田四丁目1の2

E-mail iwata-e@toyohashi.ed.jp

Website \_\_\_\_\_

児童生徒数 男児童 418名 女児童 406名 合計 824名  
児童・生徒の年齢 6歳～12歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

## 3. 活動内容

### (1) 活動の概要

本校には全校児童の2割以上の外国籍児童が在籍していることもあり、自国や相手国のよい面を互いに尊重できる心を育む教育活動を日常的に行っている。友達の国の文化を知ることを出発点として、自国の文化や身近な地域にも目を向けさせている。多様性を理解し、国際理解を深め、共生を目指すことを通して、地域とともに地域から学ぶ持続可能な開発のための教育実践を行っている。

#### ① 地域とともに行う活動

毎年5月下旬～6月上旬に、「クリーン大活動」という活動として、地域にも呼びかけ、児童と地域が一体となって地元の公園の清掃活動を行っている。地域の方々との交流やふれあいの場であり、地域への愛着を深める場でもある。

12月には、「岩田どんどこまつり」という行事を開催している。この行事は、児童たちに地域の方々と触れ合う機会を多く設け、文化や伝統を大切にすることをねらいとしている。PTAをはじめ、地域の各種団体が手作り遊びや職業体験などの体験講座を企画する。児童は、講座の体験を通して、自分の生活には大勢の人がかかわっていることに気づき、地域の方々と交流し感謝の心を学ぶ機会にもなっている。

#### ② 外国の文化を理解する活動

校区内に住む外国人との共生をめざして、教育活動全般を通して相互理解

の心を育み、地域に根ざした教育活動を実践している。

児童会の国際交流委員会は、書き損じはがきを集め、フィリピンの児童に文房具を贈る支援活動をしている。また、児童集会では、英語やポルトガル語とタガログ語のあいさつを全校児童に教えたり、ALTや通訳のできる外国人相談員の紹介やインタビューをしたりした。

4年生の「総合的な学習の時間」では、外国の文化を理解する活動として、外国料理を調べ、校区内のブラジルやフィリピンの店の食材で外国料理を作る活動を行った。外国の食材や調理方法を知ったり体験したりすることをきっかけにして、外国の文化を身近に感じ、愛着をもつことができた。「国によって生活の仕方が違うけれど、仲よく暮らしていきたい」という気持ちをより高めることができた。

地域から学ぶ活動として、PTAが主体となって、国際学級の教員とブラジル人やフィリピン人の保護者が中心となって、料理教室を開催し、児童や保護者が参加している。いろいろな国の児童や保護者が集まり、料理をして食べる活動を通して、互いの理解と親交を深めている。

### ③ 地域の人から学ぶ

1年生が日本の伝統的な遊びを校区の方から教えていただく活動を通して、時を経て受け継がれてきたもののよさを感じ、受け継いでいこうという気持ちを高めている。

### ④ 人にやさしいまち岩田

5年生が、ユニバーサルデザインや高齢者疑似体験の学習を入り口にして、学校内や校区が万人の使いやすい仕組みになっているかという視点で見直した。この活動を通して、構造物や表示だけでなく、すべての人が心のバリアフリーを実現していくことも必要だという思いを抱いた。慣れない日本で多様な国の人が集まって暮らす岩田校区では、自分と同じように相手を大切に、困り感に寄り添うことの大切さを再認識した。



① 岩田どんどこ祭りでの華道体験講座



国際交流委員会から  
フィリピンの児童へのメッセージ

## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

#### ア. 活動分野（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な	<input type="checkbox"/> 12. 貧困

		生産と消費	
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input checked="" type="checkbox"/> 17. その他( 地域連携 )		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 行事 )	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

豊橋市役所 ●●●
-----------

② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程 (指導計画) にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。(200～300字程度)

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間行事計画・年間指導計画の前述の①～④の計画を位置付けている。教科の枠にしばられず、総合的な学習の時間も有効に使い学習効果を上げている。</li> <li>・どんどこ祭りでの体験講座の計画では、PTAや地域の各種団体との調整会議の機会を設けている。地域とのつながりを実感でき、キャリア教育の視点からも有効な体験講座になるよう、計画実行を行っている。</li> </ul>
--

③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

※チェック事項 1-4 に対応

- ・全教育活動を通して、国際理解や他者と協力して学習や学校生活に取り組む心情や態度を育てている。
- ・担任及び国際学級担当教員や通訳支援員が常に連携して、海外からの転入児童の学習・生活支援を行っている。どの児童も大切にしている職員の姿勢は、児童の自己肯定感を育てている。
- ・国際教室を3棟ある校舎のどの校舎にも配置し、全児童が国際学級を身近に感じることができる環境を設定している。
- ・国際交流委員会の活動の広報をどの児童も目にすることができる渡り廊下に掲示している。校内の多言語での案内表示も児童のつながりを尊重し、多面的総合的に考える下地作りに有効である。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

- ・教職員による活動の質と数量の両面からふりかえりを行っている。
- ・各学習活動中や単元終末の児童のふりかえりを必ず行っている。
- ・どんどこまつりについて、PTAが各種団体や児童へアンケートを行っている。
- ・外部の各種団体の意見は、地域のボランティア活動推進コーディネーターや教頭が窓口となって集約を行っている。
- ・岩田校区の地域・三世代・国際理解それぞれの交流のシンボルである、岩田どんどこまつりは今後も末永く続けていきたい。
- ・岩田校区ならではの多国籍の人との共生で、他者と協力しつながりを尊重する態度が育まれている。
- ・地域の人々と学校が協力して、障がいの有無や国籍にかかわらずどの子ども大切に育てていると評価をいただいた。
- ・多国籍の人々が互いの意思を交流させるには、通訳できる人材確保、通訳を介しての会話にかかる時間的な補償、多言語表記の配付物や表示の費用の捻出が課題である。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（200字程度）

※チェック事項 2-2 に対応

- ・学年通信やPTA新聞等で、地域とともに行う活動や講師を招いての学習活動を家庭や校区に知らせている。
- ・地域に開かれた学校としての評価をしていただいた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）  
（200字程度）

※チェック事項 2-3 に対応

・岩田校区自治会，老人会，地域ボランティア推進ネットワークとの連携

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

※チェック事項 2-4 に対応

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

※チェック事項 2-5 に対応

(3) 平成30年度の活動計画(200~400字程度)

多様性を理解し、国際理解を深め、共生を目指すことを通して、地域とともに地域から学ぶ持続可能な開発のための教育実践を行う。

- ① 地域とともに行う活動  
「クリーン大活動」  
「岩田どんどこまつり」
- ② 外国の文化を理解する活動  
書き損じはがき集をめぐり、フィリピンの児童に文房具を贈る支援活動  
英語やポルトガル語とタガログ語のあいさつを学ぶ  
ALTや通訳のできる外国人相談員から学ぶ  
外国料理を作る活動を通して外国の文化を理解する活動  
国際料理教室
- ③ 地域の名人に学ぶ  
日本の伝統的な遊びと伝統文化の継承
- ④ 人にやさしいまち岩田  
心のバリアフリーの実現